

## 狭山の元気 発見

# 躍

いきいき狭山人  
びと

# 1本のロープが結ぶ信頼と固い絆<sup>きずな</sup> 被災者と隊員たちの命を託す

昨年10月の新潟県中越地震で、土砂に4日間も埋もれていた車から2歳の男の子を助け出した東京消防庁・消防救助機動部隊、通称「ハイパーレスキュー」は、阪神・淡路大震災の教訓から創設されました。そして、新潟の災害現場へ直接救助に向かい5名の先遣隊を指揮したのが、笹井にお住まいの巻田隆史さんです。

レスキュー部隊に20年以上携わってきた巻田さん、災害救助で重要なのは、隊員同士の「絆」と言います。それは、命綱となる太さ12mmのロープにも象徴されています。災害の現場で命を託すそのロープ：「持たすことができるのは、心から信頼できる仲間の絆があるからです。どんな現場にも対応するための厳しい訓練はもちろん、家族のように寝食をともにすることで強い結びつきが生まれ、絆が培われます。その絆があるからこそ、自分

の命をも預けることができるのだと。そしてもう一つ、救助現場で重要なのは、被災者とともに必ず生きて帰る」という強い気持ち。隊長として、自分を待つ家族だけでなく、隊員やその家族のためにも厳しい訓練を重ね、絆を深めています。そんな巻田さんに届いた一通の手紙。新潟での救助現場をテレビで見た女性からのものでした。交通事故で大怪我を負い巻田さんに救助されたその女性からの手紙には、巻田さんが男の子を救助する姿を見て、私にとって思い出さくない最悪の日が、奇跡の日にになりました」と綴ってあったそうです。その女性の事故は3年前の10月27日、偶然にも男の子を救った日と同じでした。「その手紙から新たに力をもらった」と話してくれました。

職場では緊張の連続のため帰ることも、まず子どもを抱き上

げ、ほっとする」という巻田さんは、休日には地域の子ども達とのふれあいを大切に、少年野球チームで活動しています。そこで常に心掛けているのが「あいさつ」をすること。そして、子ども達に「一番伝えたいことは大好きな言葉でもある「がんばる」ことです。人として大切なことを地域で学んでほしいと考えています。そんなふれあいがらも生まれる絆。地域のつながりはさまざまなきっかけで広がっていきます。これは災害時、とても重要なことです。隣近所で助け合える仲が何よりも災害時の備えになります」と救助現場のプロとして、また地域の一人として語ってくれました。



### 巻田隆史さん

東京消防庁 第八消防方面本部  
消防救助機動部隊 隊長



左肩のワッペン是人命救助のシンボル「セントバーナード犬」と重機の「フック付ワイヤー」を表しています

家族の支えと協力があるから  
信頼しあえる仲間とともに  
これからも多くの命を救いたい

# オピニオン

皆さんの「声」をお寄せください。

## 周りへの配慮と思いやりを

### 喫煙はマナーを守って



私は子育て真っ最中の主婦で、公民館などをよく利用しています。最近は公共施設などの分煙が進んできて、たばこを吸わない私たちには

大変良い環境になってきました。しかし、分煙がまだ徹底されていないと時々、感じることもあります。それは施設の出入り口に灰皿が置いてあり、喫煙場所になっているのをよく目にするからです。喫煙している人たちの横を通って施設を出入りするので、入るときなどは、その煙が施設の中に入ってしまうのです。

何かとストレスの多い社会ですし、たばこも販売されているので、吸ってはいけなとまでは私は思いません。しかし、喫煙する方は、たばこの煙が嫌だと思っ人がいることを忘れないでほしいと思います。そして、歩きタバコやたばこの投げ捨てなどはもちろん、たばこを吸っていい場所であっても、近くに人がいた

ら一言声をかけるなど、他人への配慮やマナーを守ってもらいたいです。さらに社会全体でたばこの有害性などを正確に伝え、子ども達がかつこよさだけで、たばこを吸わないような環境になれば良いと思います。

■原田雅子（おぼろ）さん（水野在住）

市の考え方  
貴重なご意見をいただきありがとうございます。

平成15年5月に健康増進法が施行されました。市では受動喫煙の防止の観点から、すべての公共施設内での喫煙を禁止しています。ご指摘のように、出入り口付近に灰皿を設置している施設は、施設内にたばこの煙が入らないように、灰皿の位置を工夫するなどの配慮をしていきたいと考えています。

また、子ども達の「たばこ」に対する思いや考えを大人へのメッセージとして伝えることも、マナーの向上などにつながるかと考え、小学生を対象に「たばこについて」の作文を募集しました。そして作文集として小学4～6年生の家庭に配布し、大きな反響がありました。

今後、たばこの有害性などについて、健康づくり講座の開催などを通じて、積極的な啓発活動に努めていきたいと考えています。

担当 健康推進課

## A ssistant L anguage T eacher

During the winter hiatus, I traveled to South India. My journey had been very pleasant, as I followed the coastline from the Sea Of Arabia to the Bay Of Bengal. When I reached the most southerly point of the Subcontinent, a place called Kanyakumari, I was shocked to discover that a tsunami had hit two hours before. The villages that lined the sandy seashores were horrendously damaged. When I arrive in the small city of Pondicherry, I volunteered to help with the relief efforts at two villages. Again, the destruction I saw there will forever stay in my memory. One house that I passed had collapsed entirely, killing the family within it. The immediate compassion that has been shown around the world has to continue. The rebuilding of the communities and livelihoods will take many years. Please help people by supporting a charity.

私は、冬休みに南インドへ旅行に行きました。アラビア海からベンガル湾までの海岸沿いを訪ね、旅をととても楽しんでいました。しかし、カンニャクマリと呼ばれるインド亜大陸（半島）の最南端に着くと、そこは2時間前に津波に襲われたばかりで、砂浜の海岸沿いにある村々は、恐ろしいほどの被害を受けていました。ボンディチェリの小さな市に着いてから、私は二つの村で救援活動のお手伝いをしました。あらためて私がそこで見た破壊状態は、一生私の頭から離れないでしょう。私が活動した家は全壊し、その中にいた家族を死に至らしめました。世界中で行われている援助などは、しばらくは継続すべきで、市町村や地域社会の立て直しは、何年もの年月がかかるでしょう。どうぞみなさん、被害にあった国の人たちを支援してください。（英文の要約）

### 好きな言葉 悟り

仏教に非常に興味があるから



El Branden Brazil  
エル・ブランデン・ブラジル  
(入間川中学校勤務)

狭山市のALTとして勤務して5年  
趣味は文筆、芸術、写真、旅行、映画鑑賞